



静岡 陸協 会報

第 2 号 (2007年 3月 3日 発行)

静岡陸上競技協会
〒420-8508
静岡市葵区鷹匠1-1-1
新静岡センター6F
TEL・FAX 054-253-9801

強化を願う

静岡陸上競技協会 会長

齊藤斗志二

二〇〇六年十一月十七日は私にとって生涯忘れてならない日であった。

その理由は静岡県体育協会主催の第六十一回国体選手団顕彰式・解団式後、例年なら苦楽を共にした監督選手とともに会食しながら健闘を称えあう和やかな慰労会を本年は中止したことである。このことは私が副会長当時、佐野嘉吉会長より団長職を譲られた平成元年第四十四回北海道国体以来の面目ない出来事であったからである。

例年ならテレビカメラが入り記者が多数取材にくるが今回はごく少数であった。閉会後の帰りを急ぐ監督等関係者の背中を手をあわせる思いで見送った私である。それでも顕彰式に共に大会新記録の池田久美子選手（スズキ）と笹瀬弘樹選手（浜松市立高）の二人のいたことで陸上競技協会の会長として少しは救われた気持ちであった。この点亀山理事長、

新聞強化委員長等国体陸上陣関係者に感謝する次第である。

さて、過去の陸上の成績を資料によると天皇杯授与が始まったのは第三回福岡国体よりで、①位が九回②位十二回③位五回④位八回⑤位三回⑥位二回であった。皇后杯では①位が八回②位十回③位三回④位三回⑤位四回⑥位二回を記録している。

このような実績は他の競技団体に比べ県の総合力に多大な貢献をしているといえるが、これに満足することなく選手の発掘・強化に更なる努力をしなければと思う次第である。

その第一段として小学生の新体力テスト上位者を集めて県体協において静岡スパーキッズ大会を設立した。これが未来につながってくればと期待している。

来年の秋田国体後は是非解団式後に慰労会が開かれるようにと念願している私である。更に二〇〇八年平成二十年は静岡県体育協会が創立八十周年を迎えるのでその記念式典にはわが陸上陣が多数胸を張って列席したいものである。

平成十八年度静岡陸上競技協会活動報告

静岡陸上競技協会 理事長

亀山敏郎

この一年間の活動報告を申し上げます。対外的には、地域大会以上については、静岡国際陸上を五月に、中日浜松カーニバルを十一月に、東海高校新人陸上大会を十月エコパで開催しました。また全国ねりんピック大会陸上マラソンを大井川で開催しました。各大会とも無事盛況裡に終了しました。県内大会では、競技会は、県選手権、静岡リレーカーニバル、各国体予選会、高校・中学・小学校・クラブ等各大会、マラソン、駅伝大会も、駿府・日本平・浜名湖・市町村対抗・富士山クロスカントリー大会等いずれも無事に終了しております。総会は年一回、理事会は三回、新たに常任理事、専門委員長会議を年六回開催し、表彰委員会、規約検討委員会を計四回開催し、組織の連絡を密にしたと思っております。年間審判員の方が多い方は、三十五回以上の出席をされており、一年をとおしてそのご苦労は大変なものがあると考えます。各委員会所属の委員の方たちも大会運営、プログラム作成・準備、選手強化・普及活動等、審判員におとらぬ大変な仕事をこなして頂きました。誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

本年度は、静岡陸協にとりましては、昨年三月に六十周年記念行事をおこない記念誌の発行を行いました。改めて先人のご努力に感謝致すところであります。

強化・普及面では、兵庫国体では、総合十位、皇后杯六位でありましたが、各選手

が力を発揮して健闘してくれたと考えます。男子短距離陣の不振がありました。これも徐々に短距離の静岡の復活をみせてくれると信じております。とくに高校男子棒高跳の笹瀬君の五m三二の記録優勝と女子一〇〇mHの池田さんの優勝は見事でありました。その他にも女子砲丸投、高女一〇〇m、高女四〇〇m、高女B二〇〇m、成年女五〇〇mなどおおいに活躍をみせてくれました。とくに全国高校大会でまけた選手が国体では、高女四〇〇mH、高男八〇〇mのように入賞し久しぶりに成年男子走幅跳とやり投に入賞が見られました。さらに十二月のアジア大会で、スズキの池田選手が走幅跳に優勝、村上選手がやり投に二位、浜松西の中村選手が二〇〇mに五位、女子四〇〇mRに二位と健闘し日本代表としておおいに活躍してくれました。全国小学生大会では、本県小学生選手が、女子八〇mHに優勝、六年女子一〇〇mに二位、女子四〇〇mRに三位、男子走幅跳に三位、男子四〇〇mRに四位とじつに参加



選手の大抵の十種目に入賞と近年最大の入賞を見ております。これは、普及の少年団・クラブの指導者の長年の熱意があらわ

れたものと喜んでおります。中学生のレベルが本年は全国で砲丸投が優勝以外は振るわず気になるところであります。中学駅伝にて御殿場富士岡中学女子チームが全国二位（ほとんど二年生）と頑張りました。

高校生は、昨年にくらべ一段と成績が、東海・全国をおして向上しており、先の東海高校新人陸上でも入賞者は東海で群を抜いております。種目的に問題のある点や、選手の層の薄さはこれからの課題であり、いずれにしても指導者の養成、内容の充実を計らねば「陸上静岡」の復活はありません。十二月に福島大の川本先生（陸連コーチ・池田選手のコーチ）に草薙で短距離の指導者講習会を昨年に引きつづき行い参加者から大好評でありました。これからも継続してつづけていく予定であります。選手といえば、皆さんにご援助いただいた元スズキの森千夏さんが八月にお亡くなりになりました。みなさまに、静岡県全体で七五万二六五円の激励金を陸連をつうじてお渡しし全国で二一三万七七八九円でしたが、残念でなりません。斉藤会長、深澤副会長、私と葬儀に参列しましたが、ご冥福をお祈りします。

市町村対抗駅伝は十二月、四十二市町四十七チームの参加をえて、今年も盛大に開催され駅伝シーズンの先駆けとして県下に定着しており、年々大きく盛んになってまいりました。今年も静岡市静岡と函南町がそれぞれ優勝致しました。来年はさらに小学生女子の区間をとりいれ行う予定であります。都道府県対抗の駅伝にも多くの選手がこの大会より巣立っております。

高校駅伝では、男子藤枝明誠高校と女

子三島北高校が県大会で優勝し、京都の全国大会に出場しました。両校とも全国の厚い壁に阻まれ二十四位、二十七位に終わっております。

京都と広島の都道府県駅伝では男子二十七位、女子十四位と健闘およばず残念な結果を見ております。その中で女子中学生の佐野知美さん（富士宮四中）の第八区区間一位、男子塚本幹矢君（常葉菊川高校）の第六区区間三位の好走がありました。いずれにしても、本県長距離界選手の本年度



一般・高校日本ランキング一〇〇傑にほとんど入れない現状をふくめ一層の充実が望まれるところであります。

富士山一周駅伝については、二年越しに山梨県・山梨陸協と静岡県・静岡陸協と話し合いをつづけておりますが、期日、距離、参加対象等で意見の相違があり継続中であります。

今年世界選手権が大阪で開催されます。静岡陸協ではこの世界の最高峰のレベルの大会を次代の選手たちに見学させ明日の「陸上静岡」を担ってもらうべく、室伏選手や池田選手の出場する八月二十七日に中高高校生三十名を招待し（二泊）ます。強化委員会を中心に企画立案して参ります。一方、中学校の棒高跳を支援すべく今年にはボールの購入を陸連の援助をうけ実施しました。できるだけ多くの選手が、棒高跳王国の伝統を守ってくれ

ることを期待します。以上申し述べましたが、まだまだ、問題も山積し解決していかねばならない問題もあります。ひとつひとつ「陸上静岡」のための観点より解決していきたいと考えます。皆様のご指導、ご助言をお願いいたします。

青春の総てを

静岡陸上競技協会副会長（前理事長）
深澤通之助

この言葉や行動、さらに実現は、私の人生の根幹を成す総てである。

昭和二十三年旧制の商業学校五年卒業後、大学への進学については恩師と母親キヨには苦悩させた。

決断は母親の一言であった。

「スポーツをやるにしても、学問をするにしても、月謝免除や、寮の配慮があるにせよ、人間生身である限り、絶対大丈夫はない。入学が許されるならば、他人様のお世話にならず早稲田大学を受験しなさい。」

戦後の総てが厳しく貧しい時代に、経済的負担の心配を察知させず決断してくれた母は貧しい中でも最後まで仕送りは続けてくれた。

入学できた当の本人は、学問の早稲田大学に入れたなどの考えは微塵もなくオリンピックで大活躍された早稲田の大先輩の過去の偉業を夢見ながら、只管切磋琢磨した。

現実厳しく学生時代に全日本学生選手権も、日本選手権も準優勝までできなかったが選手権者の夢は叶えられなかった。挫折しかけたことは何度もあったが、

その都度、強い自我意識「素質や能力でなく、努力の足らざることが総ての要因」「母の熱い思いを忘れてはいけない」とさらなる工夫と厳しい練習に励んだ。

さまざまのプロセスの中で、ご支援ご面倒お世話いただいた総てが幸運に恵まれたことは、言を待たない。

第二回のマニラでのアジア大会の日本代表選手に選ばれた最終選考会の、そのときは念願叶えられた喜びに「この時、死んでしまっても良い。」とさえ感激した。

その後、日本選手権でも勝利することができたが、「青春の総て」をかけたプロセスや努力、さらには結果については、今でも心の拠として、心の中に生き続けている。

「負けに不思議な負けはなく」「逆に勝ちに不思議な勝ちもなし」

他人に勝る努力の結果が成績であると、若い選手や指導者に提言したい。

今は、どんな練習にも耐え得た丈夫な心身に生んでもらった、亡母に感謝しそれぞれ、折々の「知恩」忘れずの人生でありたいと念じている。

支部便り

東部支部

平成十八年度の当協会が主催・主管する多くの大会、今年も、県マスターズ・関東聾学校大会など例年になく大会も加わり、各地域陸協及び会員の方々のご理解と、ご協力により無事終ることができました。心からお礼を申し上げます。

そして、これらの大会には既に高体連の大会で導入されている記録のコンピュータ処理が出来るように機材や、人材の育成に努め、また県の情報システム委員会の協力を得た結果、東部の各競技場は迅速で正確な記録の処理が可能になった。次の課題は愛鷹競技場での電光掲示の使用ですが、経費の問題や、操作の出来る人材の育成などの課題は残る。

競技面では、中学駅伝に男子は長泉北中が、女子は富士岡中が全国大会出場を決めた。特に富士岡中は五区間全員が区間賞を取っての快挙である。高校駅伝の女子も三島北高が、二年連続二回目の出場を果たした。この三チームは持てる力を十分に発揮して山口を、都大路を駆け抜けた。

今年の市町村駅伝も、町の部で函南町が優勝、市の部では、富士市が四位に食い込み「駅伝に強い東部」の印象をより強くした。

駅伝だけでなく他の種目も強化を考え、東部の限られた財源から補助する制度を立ち上げた。

(東部支部 理事長 勝又瑛逸)

中部支部

平成十八年度中部陸上競技協会、主催・主管の競技会は、残る駅伝、ロードレース大会以外すべて無事終了いたしました。これも中部陸協、七支部審判員の皆様のお力添えのためものと、お礼と感

謝を申し上げます。なかでも、審判員の皆様の手づくり大会である種目別競技会では、地元の子供の小学生、中学生が参加し中部地区の競技力向上に大変貢献してくれました。参加者の中には、八月二十五日から二十七日に行われた第二十二回全国小学生交流大会で清水ミズノSCの高山真奈奈さんが六年女子一〇〇mで二位(十三秒〇五)、森 久留美さんが五年女子一〇〇mで四位(十三秒九二)、加福沙彩さんが五、六年女子走幅跳で三位(四m五十七)、清水ACの川口亜弓さんが五、六年女子走高跳で七位(十m三〇)と四名の女子が入賞し、将来が楽しみな選手が育ってきております。中学生、高校生については今一步の感がありました。十九年度には全日中、全国高校総体に中部地区から多くの選手が出場し活躍してくれることを期待しております。四月三十日に地元草薙で第二十三回静岡国際陸上競技大会が開催されます。

県陸協の中心的事業であります。中部協としましても成功に向けて一丸となつて競技運営の準備にあたらなければなりません。審判員の皆様の一層のご支援ご協力をお願いいたします。

(中部支部 理事長 大塩正則)

西部支部

平成十八年は元スズキ陸上部の森千夏さんの逝去という悲しいできごともありましたが、選手が大変頑張った年でした。インターハイでは浜松西高の中村宝子さんが女子二〇〇mで高校新記録で優勝、アジア大会に選ばれました。男子棒高跳

では笹瀬弘樹君(浜松市立高)が優勝、国体少年Aの部でも頂点に立ちました。また、スズキの池田久美子さんの活躍も目を見張らせるものがあり、日本選手権、国体成年の女子走幅跳優勝、五月に大阪で行われた国際グランプリ大会では六M八十六という日本記録を樹立しました。

先日行われたアジア大会には男子やり投の村上幸史君(スズキ)を含めて三人が出場しましたが、女子走幅跳で金、四×一〇〇mRで銀、男子やり投で銀とそれぞれメダルを獲得したことは周知の通りです。チームとしてはスズキ陸上部の全日本実業団陸上七連覇も特筆すべきことだと思えます。このような素晴らしい成績を残した年ですが、これは選手の努力、指導者の情熱は勿論のことですが、永いこと培われた西部の土壌であり、陸上競技の好きな人達が指導や大会運営にあたるからだと考えます。選手が誇りと意欲を持つて競技に取り組める練習環境や競技会をこれからもずっと維持していけますよう、会員の皆様の一層のご理解、お力添えを心からお願い申し上げます。

(西部支部 理事長 和田隆保)

草薙競技場の誕生

参与 伊藤英一

国は(内務省)国民の体位向上を目標に明治神宮外苑に競技場を造成(大正十三年十月二十五日完成)し、全国都道府県対抗の第一回明治神宮体育大会を開催した。これに代表選手団を送るために県は学務部を中心に体育協会の結成を急ぎ

昭和三年十月二十四日に創立され「スポーツ県静岡」を目標にして陸上、水泳、武道(柔道・剣道・弓道)、野球、蹴球(サッカー)、籠球(バスケット)、排球(バレー)、山岳、庭球(テニス)の種目で発足した。(平成二十年で創立八十周年である。)

陸上競技の県下大会は、前号に書いたが静岡師範の運動場(現在の静大付属中学一週二八〇M)を使用、コースは石灰で引き師範の陸上の生徒が奉仕して開催されていたが、神宮大会が一周四〇〇Mであるので、県中等学校体育連盟(現在の高体連・創立〇大正十五年十月二十三日)がその年の暮れに県営競技場建設を陳情した。更に昭和二年には県市町村青年団団長と県教育会(校長会)がともに長谷川県知事に陳情していたが、県財政の危機的情勢下で敷地一万坪経費六万円案が水に流されていた。この頃静岡鉄道が阪神鉄道の甲子園を参考に静岡清水間の沿線に野球場建設の計画を進めていたので知事や学務部長(現教育長)が電鉄を訪問し競技場建設は静岡鉄道に委譲することにした。静鉄は今の草薙に野球場を第一期工事(十九万五千円)で昭和五年七月十五日完成、陸上競技場は五千坪を一万五千円で購入し第二期工事としていた。この敷地を静岡鉄道が昭和十四年県に寄付されたので県は紀元(皇紀)二六〇〇年記念事業で(昭和十五年一〇九四〇)陸上競技場造成を青年団員、中等学校生徒の勤労奉仕で進め昭和十六年四月十九日に完成した。当時各市町村よりの樹木の寄付があり今の競技場の山桃等は当時のものである。念願の四〇〇m

のトラックが十五年ぶりに県民のものになったのである。

活動状況

小学生の現状と課題

今回全国小学生陸上競技交流大会で過去最高の成績を取めた。

昨年度に引き続きの輝かしい結果の背景を考えてみた。

クラブチームは県内に四十ほどあり、全国トップ三千人ほどの選手を育成している。中には全国でも有名な名門チームも数多く存在している。かつては、その名門チームが県内はじめ東海・全国大会で活躍していたが、ここ数年、そのチームに追いつけ追い越せと新興勢力の活躍が目立ってきた。大会で他チームの選手を研究するばかりでなく、積極的に全国小学生陸上競技指導者講習会へ参加したり、普及委員会主催の合同練習会、さらには福島大学教授・川本和久先生による指導者講習会などに参加し、指導法を工夫してきている。また、全国・東海大会参加選手を集めた選抜練習会では、優秀な指導者の指導を目前に見ることができ、指導者同士の情報交換も以前より活発に行われ、各チームの力がかなり拮抗してきている。

県内小学生チームの勢いはまだまだ続くと思われるが、課題もある。中学進学に伴い、陸上競技部がないなどの理由で優秀な選手が競技を続けられないこともある。本県にも小学生だけでなく、中学

生も引き続き指導をしているクラブチームも目立ってきているが、今後さらに、関係機関との連携を図り、長いスパンで選手の育成を目指していきたい。

(競技・普及小学生担当 豊田博幸)

中体連

第三十三回全日本中学校陸上競技選手権大会を終えて

『夢求め！四国で輝く 風となれ！』のスローガンのもと、香川県丸亀競技場で、第三十三回全日本中学校陸上競技選手権大会が開催された。本県からは、男子四十一名、女子三十八名、合計七十九名の選手が標準記録を突破し、八月十九日(土)から八月二十一日(月)の三日間大会に参加した。

一日目は、台風の影響で向かい風が強く選手を悩ませた。二日目は、気温三七度を超す猛暑となり、選手は暑さ対策が必要であった。午後からは、豪雨に見舞われ競技が一時中断されるという状況であった。三日目は、絶好のコンディションで競技が行われ日本中学新記録、大会記録のラッシュであった。本県から出場した男子砲丸投で鈴木郷史君(東伊豆稲取)が、十六m三十二の日本中学新記録で五kg初代チャンピオンに輝いた。その他にも、棒高跳で高須浩平君(新居)が七位、一〇〇mHで丸山実来さん(富士鷹岡)が四位、走高跳で片山奈己さん(新居)が六位、四種競技で大竹良美さん(浜松東部)が八位に入賞した。また、惜しくもあと一歩で入賞を逃し、涙をの

んだ選手も数多くいた。いずれにしても、今後の活躍が大いに期待できる競技結果であった。

大会期間中、県選手団スタッフとして各校の選手や顧問の先生方の為に細かな配慮をし、毎朝四時に起きて県選手団のベンチどりを手伝ってくださった鈴木公哉先生、佐々木茂雄先生、トレーナーとして同行していただいた奥村先生にも感謝します。

(専門委員長 高山 登)

高体連(全日制の部)

十八年度を振り返って

十八年度の高校生の活躍は二人の選手により、静岡が目立ちました。高校総体全国大会において、浜松西高校の中村宝子さんが、二〇〇mでジュニア日本新記録を出して優勝、昨年棒高跳にて一年生ながら二位に入賞した、笹瀬弘樹君(浜松市立)の優勝。さらに兵庫国体で、高校歴代二位となる五m三十一の大ジャンプで優勝し注目を浴びました。

このようなスーパースターがいる中で、本県の全体のレベルをみると、高校総体全国大会の都道府県別得点では、男子の躍進が大きく、昨年の男子十二位から六位へ、しかし女子は三位から八位へと後退してしまいい来年度が心配されます。

来年度の全国総体での目安となる東海新人大会での本県の活躍は、男子の活躍が目覚しく、一位から三位までの静岡県勢の占有率は、三十七%と昨年の三十二%と比べて伸びて来ています。女子に

関しては昨年は四十五%と驚異的でしたが、三十一%とだいぶ低調になってしまいました。来年度は、男子の活躍が楽しみです。女子のレベルダウンがどのようにつながってしまうのか心配されます。

最後に、高校駅伝が今年も浜岡において開催され、当初の予想通り、男子は藤枝明誠が二年連続七回目、女子は三島北が二年連続二回目の優勝をし、都大路に挑戦しました。両チームとも昨年京都を疾走したメンバーが全員残っているため、大いに期待されます。

本年度は、東海高校新人大会が草薙で行われ、陸協の皆さんの御協力によりトランプもなく無事終えることができました。御礼申し上げます。来年度は、東海高校総体がエコパで、東海高校駅伝が浜岡で開催されます。大変な年度となりますが、なお一層の御支援御協力よろしくお願ひします。

(全日制専門委員長 綾部信明)

高体連(定通制の部)

十八年度定通制では八月十一日、十三日に国立競技場で開催された全国大会に五十一名を送り出しました。今大会では戦力的に恵まれ、女子では走高跳の浜松北・伊藤舞さんが優勝したのをはじめ、二位も八〇〇m、一〇〇mH、円盤投の三種目など合計八種目の入賞を数え、フィールドでは三十六年振り二回目となる優勝を果たし、総合でも三位となりました。伊藤さんはまだ二年生なので連覇に期待がかかります。一方、男子では走高

跳で榛原・大塚君が三位になるなど、三種目で入賞しました。この結果、男女総合では四年振りとなる七位入賞を果たすことができました。

県大会の参加状況では、本年度より福智浜松が浜松啓陽として全日制に移行したことによる選手減が心配されましたが、春季、秋季とも昨年並の参加となりました。各校とも練習場所や練習時間の確保等で苦労されているとは思いますが、次年度も盛り上げていけるようお願いします。

最後に、大会運営や審判をお願いした東部陸協・中部高体連他、関係各位にはこの場を借りて御礼申し上げます。

(定通制専門委員長 浜田俊則)

大体連

県大学学生選手権の開催について

表記の大会を平成十九年三月下旬か四月上旬に草薙競技場で開催予定です。この件に関して、理事長の許可を得て、常葉大学の大塩正則先生、浜松大学の杉本龍勇先生とも相談し、この大会の趣旨は県内在籍の大学生に試合回数を増やし、全日本インカレの標準記録を突破できる機会を与え、さらに学生選手同士の友好を深めることを第一にしました。

今後は、春夏秋冬に機会を作り、合同練習会を行い、県内学生の競技力向上をねらい、国体や日本選手権に多数の学生選手が出場できたらと思っています。

(大体連理事 伊藤 宏)

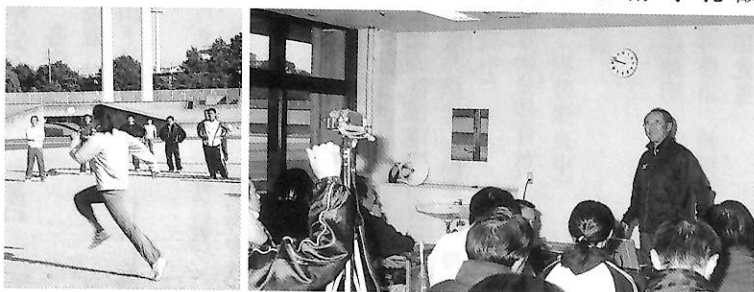
**指導者講習会開催
(小・中学生・ジュニア指導者対象)**

**金メダリスト
池田選手が協力**

昨年十二月十七日、静岡草薙陸上競技場にて第二回指導者講習会が開催された。講師は一昨年に引き続き、福島大学陸上競技部監督川本和久氏(アジア大会日本チーム短距離コーチ)が務めた。なお助手として、同大学時代からの教え子である池田久美子選手(アジア大会走幅跳、金メダリスト)が協力した。

今回、午前中、川本氏は「疾走中のエネルギー」とトレーニング」と題し、スプリント中の酸

素摂取量・乳酸との関係等についての講義をした。また午後からは池田選手が実技を通して、基本的フォーム(走の基本)について、川本氏の解説を加えながら講習は進められた。最後に川本氏は、受講者たちに常に自然体で走ることの大切さを強調し終了した。(広報)



**第二十二回静岡国際陸上競技大会
本県選手の活躍とメディア**

今回の大会は、アジア大会代表選考会を兼ね六カ国約三〇〇人の選手が出場し、十四種目(男・女)が行われた。なかでも池田久美子選手(スズキ)が女子走幅跳で大会新(記録六m七五)で優勝。本年大阪で開催される世界陸上参加標準A記録を突破した。また女子二〇〇mで長倉由佳選手。女子砲丸投げで美濃部貴衣選手がそれぞれ三位入賞を果たした。

また取材関係者は次のとおりである。

- ①、テレビ局(五社)
 - ②、新聞社(十五社)
 - ③、スポーツ誌・写真誌(五社)
- (報道関係者八十九名)

(広報)

**第七回静岡岡崎市町村対抗
駅伝競走大会・結果報告**

平成十八年、十二月二日(土) 県下四十二全市町より四十七チームの参加のもと、晴天にも恵まれ無事、大会を終了できました。陸協審判員四二〇名、十七校の高校陸上競技部補助員一六〇名を含め、一五五〇名余りのご協力により、大会が出来ました事、事務局として、感謝申し上げます。

【大会内容】

〔十区間、四十二・一九五km、午前十時県庁前スタート〕草薙競技場ゴール、天候…晴れ、気温…十三・一℃

1、参加チーム数…四十二全市町四十七チーム

- (1) 市の部…二十三・五二二十八チーム
 - (2) 町の部…十九・九十九チーム
- ※ 市町村合併により、「村」は、すべてなくなり、市町の部対抗となりました。

2、大会結果について、
【優勝】市の部…静岡市静岡 二時間十五分十三秒・町の部…函南町 二時間二十一分七秒

**第八回静岡岡崎市町村対抗
駅伝競走大会お知らせ**

- (1) 日 時 平成十九年十二月一日(土) スタート時間 午前十時 雨天決行
- (2) コース 県庁→駿府公園→北街道→清見寺→清水区役所→南幹線→県営草薙陸上競技場十一区間(四十二・一九五km)



※ 現、四十才以上の三区(五・二六km)を二分割し前側に小学生女子区間を新設し「一・三六km、三・九〇km」小学生男子を二区、女子を三区、四十才以上を四区とし、現四区を五区

と以降、各区分が繰り下がり十一区間となります。

又、第一・二中継所が二之丸橋入りUターンし、旧児童会館前中継が二之丸橋入り、西門橋へ出る通り抜けとし、家康銅像前を中継所に変更になります。従って、第一走者、二週目は二之丸橋入り駿府公園内通り抜け西門橋を出る周回コースとなり、第二走者も同コースを周回し駿府公園内で中継し第三走者に引き継ぎ西門橋を出、長谷通りに向かうコースとなります。

静岡県市町村対抗駅伝競走大会
(事務局長 村松義明)

大阪世界陸上競技選手権大会 ジュニア競技者観戦視察事業

- 1、趣 旨 静岡県代表選手の「第十一回世界陸上選手権」の世界トップアスリートを身近に観ることで「陸上静岡」としての誇りと陸上競技に対する意識の高揚をはかることを目的とする。
- 2、期 日 二〇〇七年八月二十七日(月)～二十八日(火)
- 3、会 場 大阪、長居陸上競技場
- 4、参加者 県内中、高校生三〇名
引率役員五名
- 5、派遣選手・役員の選考は、強化委員会において現案を作成し八月の理事会で決定する
- 6、費用 静岡陸協負担
(交通費、宿泊費等)

総務委員会各栄章報告

平成十八年度、各栄章一覽表

日本陸上競技連盟

・秩父宮章 山下昌彦(理事) 仁科仁郎(常任理事)

・平沼亮三章 新聞一夫(袋井高教)

・河野謙三章 白鳥勝士(浜松曳馬中教)

・春日弘章 長倉由佳(静岡市立高)

・河野一郎章 富士優太郎(裾野深良中)

・安藤百福記念章 伊藤秀志(袋井AC)

静岡新聞社・静岡放送スポーツ賞、体育功労者賞 佐橋保(静岡陸協副会長)

・優秀選手賞 櫻井里佳(福岡大) 富士優太郎(裾野深良中)

(財)静岡県体育協会体育章、優秀選手章 富士優太郎(裾野深良中)

静岡陸上競技協会

・功労者表彰

小塚勝義 近藤伸明 高野胖人

大原一夫 鳥井啓市 袴田さとる

稲葉勝己 内田光英

・日本記録樹立者表彰

富士優太郎

・優秀選手者表彰

村上幸史 池田久美子 櫻井里佳

川口直哉

・日本陸連S級審判委嘱者

勝又瑛逸 望月紘一 稲葉勝己

今関清美 渡邊千冬 井口公市

貞石昭雄 西谷 隆 瀬川一三六

柴田吉筋 増田忠雄 伏見大吉

・優秀指導者表彰

勝亦祐一 土屋洋治 市原和男

吉川 紳 河合友泰 青木正裕

神谷晃尚 寫 佳久 溝垣昌久

・精勵表彰

勝亦祐一(今野教之 佐竹哲郎)

森本官名 横森春美 水谷陽介

森 稔 加茂 晃 斎藤俊幸

鈴木宣司 松井 啓 松井清和

松井泰子 守谷 正 今村正樹

佐藤和久 石田征大 山下恭弘

榎本行秀 柏木直人 山城百孝

横山和宏

・精勵表彰

井草正男 川口勇雄 佐藤 武

鈴木邦彦 竹川滋子 野中基行

原 栄一 和田陽治郎 海野俊明

竹田利恵子 吉田慎五 青島一弘

佐々木ふさ子 澤井猛英 洪川 努

島崎政則 鈴木公哉 高塚陽子

中地 恵 橋本春美 平野 聡

藤田正美 村上 晋 柳下泰子

吉田健一

・喜寿表彰

植松文明 澤田幸作 芹沢保男

系川欣司 坂本巳年夫 千須和義忠

・古希表彰

青島明美 秋山二郎 石橋重利

勝又富士作 竹川三郎 千田文男

伊藤稔英 渥美晴雄 望月正男

渥美淑朗 本田伸二

・還暦表彰

池谷 誠 志林重利 鈴木修子

高杉伸行 野村栄樹 増田治正

大社幸三 大橋松吾 田丸傳後

鳥寄節子 高田 均 高橋 正

松下 功

・感謝状

故石川八郎 故山下萬 故飯塚昌巳

故浅倉茂

(総務委員長 仁科二郎)

競技委員会・田大会日程

十二月十四日理事会により平成十九年度県陸協事業計画が承認されました。主な事業は例年五月三日実施の日本グランプリ第四戦となる第二十三回静岡国際陸上競技大会兼第十一回IAAF世界選手権大阪大会代表選手選考会(草薙)が四月三十日(月・祝)に変更されたのをはじめ、六月の東海高校総体(エコパ)、九月の東海マスターズ(エコパ)、東海高校駅伝(浜岡)など東海大会が静岡で実施されるなど全国レベルの競技会を運営することになり、会員の皆様方にはご協力をお願いすることになります。

主要競技会は次の通りです。

- 四月一日(日) 日本平校マラソン(草薙)
- 四月二十二日(日) 第三十六回静岡リレーカーニバル(草薙)
- 四月三十日(月・祝) 第二十三回静岡国際陸上(草薙)
- 五月十三日(日) 静岡マスターズ(草薙)
- 五月二十五日(金) 一ズ(草薙)
- 五月十七日(日) 県高校総体(エコパ)
- 六月三日(日) 県小学生交流大会(草薙)
- 六月十五日(金) 一ズ(草薙)
- 東海高校総体(エコパ) 六月十六日(土)
- 県高校定通制大会(富士)
- 国体成年少年予選会(草薙) 七月七日(土)
- 県中学選抜陸上(草薙) 七月十四日(土)
- 一ズ(草薙) 七月十五日(日) 県陸上競技選手権(草薙)
- 一ズ(草薙) 七月二十一日(土) 一ズ(草薙)
- 日(日) 県中学通信陸上(草薙)
- 八月五日(日) 県ジュニアクラブ選手権(草薙)
- 八月十九日(日) 富士山クロスカントリー(子供の国)
- 八月二十五日(土) 県ジュニアオリンピック(草薙)

薙)・九月九日(日) 東海マスターズ
 (エコパ)・九月二十九日(土)・三十
 日(日) 県高校新人陸上(草薙)・十月
 六日(土) 県中学新人陸上(草薙)・十
 月十四日(日) 県小学生陸上選手権(草
 薙)・十一月三日(土・祝) 浜松中日カ
 ーニバル(浜松)・十一月四日(日) 県
 高校男女駅伝(浜岡)・十一月十七日
 (土) 県中学男女駅伝(エコパ)・十一
 月二十五日(日) 東海高校男女駅伝(浜
 岡)・十二月一日(土) 第八回市町村駅
 伝(県庁・興津・草薙)・十二月十六日
 (日) 県指導者講習会(草薙)・二月十
 七日(日) 中日浜名湖駅伝(館山寺)・
 三月二日(日) 静岡駿府マラソン(駿府
 公園)・三月二十三日(日) 三地区審判
 講習会(愛鷹・草薙・浜松)
 (競技委員長 加藤 崧)

強化委員会報告

十二月カターのドーハでアジア大会
 が行われ本県からも三名の競技者が参加
 しました。走幅跳に池田久美子(スズキ)
 さんが優勝、やり投で村上幸史(スズキ)
 君が二位、また高校生で参加した中村宝
 子(浜松西高)さんが四〇〇mRで二位
 という素晴らしい成績でした。

大阪のインターハイでは棒高跳で笹瀬
 弘樹(浜松市高)君と二〇〇mで中村宝
 子(浜松西高)さんが優勝。その他の種
 目においても多くの競技者が入賞しまし
 た。

第六十一回国民体育大会(兵庫) 結果
 天皇杯 十位 八十一位
 皇后杯 六位 五十七位

入賞者

男子 成年
 走幅跳 鈴木隆介(中央大学) 六位
 やり投 石川徹哉(中央大学) 六位
 少年A
 八〇〇m 小川恭正(加藤学園) 四位
 四〇〇mH 三浦祐矢(吉原商高)

棒高跳 笹瀬弘樹(浜松市高) 優勝
 三段跳 山崎幸太(浜松市高) 八位
 少年B
 円盤投 バウデイセラ(新居高) 八位

女子 成年
 五〇〇〇m 松岡範子(スズキ) 四位
 一〇〇〇mH 池田久美子(スズキ) 優勝
 少年A
 砲丸投 美濃部貴衣(筑波大学) 二位

少年B
 二〇〇m 伴野里緒(浜松市高) 三位
 少年共通
 棒高跳 尾上裕香(磐田農高) 五位

本年度は昨年に比べ開催が二週間ほど
 早く、選手選考会議から団体まで日程が
 詰まっております、その間三回の合宿、競技
 会への参加など選手もコンディションの
 調整に非常に苦労しながら団体を迎えた。
 初日笹瀬君の棒高跳の優勝からチーム
 に勢いが付き優勝二人・入賞十三人と昨
 年を大きく上回る結果でした。

多くの人達の協力・応援ありがとうございました。

(強化委員長 新聞一夫)

審判委員会の活動について

日頃から各競技会の審判活動にご協力
 いただき有り難うございます。さて、本
 号からは審判委員会の活動内容を紹介し
 ていきたいと思います。

陸上競技会において記録が公認される
 要件が四つあることはご存知であると思
 いますが、初めに確認しておきたいと思
 います。

一、参加競技者の全員が競技者の資格を
 有していること。
 二、日本陸上競技連盟競技規則によるこ
 と。

三、日本陸上競技連盟の公認競技場で開
 催すること。

四、審判員は、補助員を除きすべて公認
 審判員であること。

競技者あつての競技会ですが、前記の
 四項目に適合していないと記録は公認さ
 れません。このうち審判委員会が主に関
 与しているのは二と四の項目です。この
 公認審判員の諸手続を遂行することから
 審判委員会の任務が始まります。

その年の三月に県内約千名の方々に審
 判登録票を送付し、登録をお願いします。
 この手続きの中でS級、A級の方には五
 千円、B級の方には三千円の登録料(陸
 協会員費)を納めていただいております。
 これらは協会の運営、競技会時の審判員
 の保険料、審判講習会資料代等に使用わ
 れるよう協会の予算に組みこまれています。

最後にお願ひになります。登録票の
 記入では多少面倒な所もありますが注意
 事項を守って三枚とも正確に御記入いた
 だき、なるべく早期に手続を完了してい
 ただきたいと思ひます。競技会の適切な
 運営に御協力下さい。

(審判委員長 草野康二)

普及委員会報告

全国小学生陸上競技交流大会

昨年度は、浜松陸上の四〇〇mリレ
 の優勝を筆頭に七種目の入賞を果し、本
 県としては過去最高の成績でした。本年
 度は、女子八〇mハードルで大会新記録
 を樹立した浜松河輪A.Cの小沢沙里花さ
 んがみごと優勝し、全体でも全国トップ
 の十種目に入賞することができました。
 大会結果は次の通りです。

○男子六年一〇〇m

第五位 十二秒五七

御前崎第一 村松宏俊

○男子五年一〇〇m

第七位 十三秒七四

長泉陸上 小川拓夢

○男子五・六年八〇mH

第五位 十二秒八

三島陸上J.C 奥野圭太郎

○男子四〇〇mリレ

第三位 五十一秒三九

富士陸上教室 井出拓海

加藤竜馬、岩本 望

久松 巧、日原章斗

○女子六年一〇〇m

第二位 十三秒〇五

清水ミズノSC 高山真里奈

- 女子五年一〇〇m
第四位 十三秒九一
清水ミズノSC 森 久留美
- 女子五・六年八〇mH
第一位 十二秒六四
大会新記録

- 浜松河輪AC 小沢沙里花
- 女子五・六年走幅跳
第三位 四m五七
清水ミズノSC 加福沙彩

- 女子五・六年走高跳
第七位 一m三一
清水AC 川口重弓
- 女子四〇〇mリレー
第四位 五十四秒四二

裾野市陸上教室 渡辺菜月
矢嶋梨沙、吉野夏実
金刺李歩、市川奈々
(普及委員長 石野吟策)

情報システム委員会

陸上競技運営用簡易ソフト
静岡陸上競技協会情報システム委員会では、どのような競技場、競技会でも簡単にパソコンを使用して、作業を簡略化するためのソフトウエアを記録委員会と協力して開発した。

フィールド記録用紙も作成できパソコンの他のソフトで作成したデータを取り込むことや、これまで通り個票を使ってプログラム原稿を作成し、それを印刷会社でコンピュータに入力したものを提供されて使うこともできる。

記録を入力することで、記録を発表するための原稿と番組編成案が作成でき

る。決勝を行わないで順位を決めるタイムレース決勝にも対応して順位を決定でき、逆に一緒の組で走った後に部門別に別々の順位を決定することもできる。必要な機器類は、パソコンが二、三台、プリンター一台程度である。トラック記録は、各種写真判定装置からそのままデータを取り込むことも可能になっている。

このソフトが普及したために、ランキング作成作業も迅速になりインターネットへの記録掲載もスムーズになった。このように多くの競技場や、競技会で使用するにあたり、静岡陸協と各支部から物心両面の援助をいただき感謝したい。

記録委員会報告

平成十八年の主な記録
平成十八年は、様々な部門で記録更新のラッシュであった。

まず一般の部では、昨年から女子の活躍が目立っている。アジア大会で見事に金メダルを獲得した池田久美子(スズキ)は、国際グランプリ大阪大会の走幅跳では、日本新記録を樹立し、夢の七mまでと一歩のところまでできた。一〇〇mハードルでも日本歴代二位の記録を樹立。両種目とも国内では負け知らずだった。大学生で目立ったのは、筑波大の二人。金子沙織が一〇〇mハードル、美濃部が砲丸投でいずれも日本インカレで優勝し美濃部は国体でも二位入賞を果たした。女子は他にも三〇〇m障害の佐野奈々絵(スズキ)が東海新、国体の五〇〇mで入賞した松岡範子(スズキ)は一〇〇mで県新、やり投の矢部小織(中京

大)も県記録を更新した。男子はやり投の村上幸史(スズキ)が国内では勝ち続けアジア大会でも銀メダルを獲得した。高校でも女子が活躍した。アジア大会で二〇〇m五位、四〇〇mリレーでも二位となった中村宝子(浜松西)は、高校総体の二〇〇mでジュニア日本新を樹立して優勝したのを初め、一〇〇m東海高校新、古橋・肥田・飯尾と共に一六〇〇mリレー東海高校新記録を樹立した。その他四〇〇mの飯尾絢(浜松西)も県高校記録を更新して国体でも三位入賞、更に女子は普及が遅れていた棒高跳で尾上裕香(磐田農)が県記録を更新し続け、国体でも入賞した。三段跳でも渡邊千洋(浜松商)が県高校記録を更新した。男子は笹瀬弘樹(浜松市立)が次々と自己記録を更新し、全国高校総体、国体と優勝の座に輝いた。東海高校記録も更新している。重量が変わった砲丸投は宇野瑞基、内野賢(いずれも藤枝明誠)飯室延郎(浜松商)が県記録を目指して競い合った。全国総体では飯室が入賞したが、記録では内野が上回った。

中学では、砲丸投の鈴木郷史(東伊豆稲取)の活躍が一際目立った。全国中学とジュニア五輪の二度全国大会で中学日本記録を更新し優勝。ジュニア五輪では、二〇〇mの飯塚翔太(御前崎浜岡)、一年生ながら走幅跳の松原奨(静岡東)と一〇〇mの清水香帆(浜松積志)も優勝し、今後が楽しみである。他にも四種競技では男子は鈴木健太(浜松天竜)が、女子は小嶋友華(浜松天竜)と大竹良美(浜松東部)が競い合いながら県中学記録を更新している。

小学生も全国交流大会で多くの入賞者を出し活躍が目立った。中でも男女とも八〇mハードルで県記録更新。男子は奥野圭太郎(三島陸上J.C.)、女子は小沢沙里花(浜松河輪AC)、特に小沢は全国交流大会で優勝した。

外国人でも男子のM・マサシ、女子のL・ワゴイ(いずれもスズキ)が全国大会で優勝するなどしてチームの活躍に貢献した。

(記録委員長 赤堀順二)

広報委員会報告

- ①報道機関への資料提供
- ②県内新聞社、テレビ局へ、大会日程、要覧送付(三月〜四月)
- ③第二十二回静岡国際陸上、日本選手団外国選手団の資料提供
- ④日本陸連新事業に協力
- ⑤陸連時報の陸協ニュース原稿送付(十八年度は三回)
- ⑥陸協、会報第二号の原稿依頼
- ⑦陸協役員及び各委員会へ
- ⑧会報第二号の編集、校正作業
- ⑨陸協行事・大会取材活動

編集委員

- 橋本美智夫 ●内田光英
- 朝比奈洋子 ●亀山健士
- 矢邊進 ●藤原岳彦 ●陸協事務局